

## 「重い皮膚病者たちをいやす」

2015年10月23日

ルカによる福音書 17章 11節～19節。イエスはエルサレムへ上る途中、サマリアとガリラヤの間を通られた。ある村に入ると、重い皮膚病を患っている十人の人が出迎え、遠くの方に立ち止まったまま、声を張り上げて、「イエスさま、先生、どうか、わたしたちを憐れんでください」と言った。イエスは重い皮膚病を患っている人たちを見て、「祭司たちのところに行って、体を見せなさい」と言われた。彼らは、そこへ行く途中で清くされた。その中の一人は、自分がいやされたのを知って、大声で神を賛美しながら戻って来た。そして、イエスの足もとにひれ伏して感謝した。この人はサマリア人だった。そこで、イエスは言われた。「清くされたのは十人ではなかったか。ほかの九人はどこにいるのか。この外国人のほかに、神を賛美するために戻って来た者はいないのか。」それから、イエスはその人に言われた。「立ち上がって、行きなさい。あなたの信仰があなたを救った。」

主イエスは十字架の死を決意してエルサレムに向かう途中、サマリアとガリラヤの間を  
通って行かれた。ある村に入ると、重い皮膚病を患った 10 人の群れと遭遇した。重い皮膚病を患った人は共同体から排除され、人に会うと「私は汚れた者です」と言いながら、身を引くように律法で定められていた。マルコ福音書 1 章に記されている重い皮膚病の人は主イエスの下に来て、ひざまずき癒しを懇願している。明らかに、律法違反である。10 人の皮膚病者たちは自己規制が効き、律法を守り、近づくことはしなかった。彼らは遠くから声を張り上げて「イエスさま、先生、どうか、わたしたちを憐れんでください」と叫んだ。主イエスは、彼らを見て「祭司たちのところに行って、体を見せなさい」と言われた。皮膚病であるか、あるいは、病が癒されているかを祭司が判定していたからである。彼らは主イエスの言葉を信じたのであろう、祭司の所に向かった。その途中で、10 人の者全てが癒された。共同体から排除され、差別と嫌がらせを受けていた彼らは、どんなに喜んだことであろうか。その中の一人が癒されたことを知って大声で神を賛美しながら、主イエスの所に戻って来た。そして、主イエスの足もとにひれ伏して心からの感謝を表わした。この人はサマリア人だった。サマリア人は、同じ民族であったが、アッシリアに滅ぼされた時、アッシリアの宗教を受け入れ、ヤーウエに対する信仰をないがしろにしたという理由で、不信仰な者として軽蔑されていた。汚れたサマリアの土地には入らない、口も利かないとしていた。ところが、10 人の重い皮膚病者たちの群れの中では、ユダヤ人がサマリア人を排除することなく、共同生活をしていたのである。捨てられた者は互いに痛みを分かち合い、受け入れ合っていたということである。そのサマリア人が主イエスの所に戻って来た。主イエスは「清くされたのは十人ではなかったか。ほかの九人はどこにいるのか。この外国人のほかに、神を賛美するために戻って来た者はいないのか」と問われた。9 人の者たちは祭司に体を見せ、癒されたことを証明してもらい、社会復帰したことだろう。しかし、彼らは主イエスによる癒しを忘れ去った。日頃、差別されていたサマリア人だけが主イエスに感謝したいと戻って来た訳である。主イエスは彼に「立ち上がって、行きなさい。あなたの信仰があなたを救った」と言われた。差別の苦しみから解放された彼は感謝すべき方を知り、差別を乗り越えた生き方をするであろう。差別は悲しい現実であり、更なる差別を生み出すこともある。しかし、差別の悲しみが新しい「共にある」地平を切り拓いていく。それが信仰ではないか。